

あとから来る者のために
坂村 真良

あとから来る者のために
田畑を耕し
種を用意しておくのだ
山を
川を
海を
きれいにしておくのだ
ああ
あとから来る者のために
苦労をし
我慢をし
みなそれぞれの力を傾けるのだ
あとからあとから続いてくる
あの可愛い者たちのために
みなそれぞれ自分ができる
なにかをしてゆくののだ

U-net通信

発行：NPO 法人地球環境共生ネットワーク 〒901-2311 沖縄県中頭郡北中城村字喜舎1478番地 TEL:098-923-2600 FAX:098-923-2611 編集人:U-net 発行人:比嘉照夫

第25回通常総会出席者対象セミナー

3月1日に第25回通常総会出席者対象セミナーが、沖縄の会場参加とオンライン参加のハイブリット方式で開催されました。今回は4人の方に発表して頂きましたので発表概要をご紹介します。

「福島の有機農業県化への取組み」

EM研究機構 奥本 秀一

EM技術による福島の復興支援プロジェクトは、「真に環境や健康を守り、経済的にも豊かになる世界のモデルとしての善循環的自然農法を普及し、福島の有機農業県化を推進する(U-net通信2024年1月号※1)」ことを目標に活動しています。

U-net通信2022年4月号※2、2023年3月号※3でも紹介頂きましたが、その先導的な役割を担っているのが伊達市霊山町のNPO法人りょうぜん里山がっこうが運営する農業者グループ「大石3ちゃん倶楽部」です。大石3ちゃん倶楽部は、中山間地の美しい風景や田畑を守るため、自分達の畑で収穫した新鮮な野菜を量販店の産直コーナーや道の駅等で販売する活動を日々行っています。

2019年7月より開始した土づくり講習会は、月1回の頻度で継続しており、2024年3月現在で52回を数えました。また、この講習会の概要やお仲間の現場での取組みをまとめた冊子『大石3ちゃん倶楽部における「土づくり講習会」の歩み』を年度末ごとに発行しています。現在は、第4集を作成中です。

お仲間への聞き取りや現場での取組みを通して、病害虫の問題や連作障害、畑の雑草管理、化学肥料、石灰資材等の過剰施肥の課題に気づきました。そこで、お仲間の現場を訪問しながら、EM技術(EM、ボカシ肥、整流・結界など)の活用推進、病害虫の診断と対策について助言(一緒に検討)、土づくりや雑草管理のための緑肥作物の利用、不耕起栽培のための試み等も行っています。

EMと有機質肥料の活用推進については、2022年より交流の始まった岩手コンポスト株式会社様よりコスモグリーン等のEM発酵肥料を年4回にわたり共同購入しました。EMやEMボカシ肥の活用と併せて、現場レベルでの実証実験や活用実績を重ねています。使用したお仲間からは、農作物の生育が良くなり増収したことから継続したいと高い評価を得ています。





現場では、病害虫に対する対策を講じることが度々あります。例えば、ナスの連作圃場では病原性糸状菌(カビ)により半身萎凋病が発生することがあります。この病気に感染してしまうと回復させる効果的な方法はないとされます。しかしながら、EMやボカシ肥、籾殻燻炭を活用することで病気から見事に回復し、霜が降りる11月中旬まで収穫を続けることができました。対応策が無いとされる病気に対してもEM技術で対応が可能であることが分かります。

EMや有機質肥料の活用に合わせて、土づくりの促進のため緑肥も導入しています。2022年、5名のお仲間の圃場の一角で、エンバク(イネ科緑肥)とヘアリーベッチ(マメ科緑肥)の混播栽培を試したところ、どの方も土が柔らかくなったことを実感されました。そこで、2023年10月中旬～11月中旬にかけて9名のお仲間の露地やハウスにて緑肥を播種しました。今年の4月には、育った緑肥をEMや有機質肥料と一緒に鋤き込んで、次作のための土づくりを行う予定です。また、緑肥は雑草抑制や病害虫対策としても活用しています。

2023年8月、NPO 法人りょうぜん里山がっこうが中心となり地域で活動する8団体で設立した大石地区農村RMO事業推進協議会「チームさすけネットりょうぜん」は、農水省の「農村型地域運営組織(農村RMO)形成推進事業」に福島県初のモデル地区として採択されました。「100%有機栽培での農地保全を実現し、中堅世代の農業者が核となり、高齢者の少量多品目生産・販売を拡大し、3年後の2025年には大石3ちゃん倶楽部を法人化」という大きな目標を掲げています。復興支援プロジェクトは、この大きな目標を達成できるよう尽力します。



※1、※2、※3のU-net通信2024年1月号、2022年4月号、2023年3月号はそれぞれ以下のQRコードより閲覧することができます。どうぞ、ご参照ください。



2024年1月号



2022年4月号



2023年3月号

「福祉施設におけるEM活用」

社会福祉法人未知の会理事長、花の宮子ども園園長 野町 承史

香川県の野町承史と申します。レイチェルカーソンは著書『沈黙の春』で、人類社会を便利にした化学物質が自然界に蓄積され、それが食物連鎖によって人の身体を蝕んでいくと警告しました。私は、昭和50年に保育士になり、その頃からアトピーを持つ子が増加の傾向にあることを実感し、子ども達の健康を預かる者として、環境問題と子どもの食育は特に重要だと感じたとき、EMと比嘉先生に出会いました。その経緯と、EM活用事例につきましては、U-net通信vol. 130に詳細が記されています。※右のQRコードより閲覧することができます。



U-net 通信vol. 130

EM活動推進のために、どうすればよいかと思案をしている時に、「1000坪ガーデン」の情報を得て、野本さんを招いての職員の勉強会を開きました。EMの整流結界、原子転換、想念の管理、EM讃詞、重ね効果等、EM初期の情報しか知らない私にとって、なかなか理解できなかった比嘉セオリーの学び直しました。宮崎の前原幸太郎氏が「田んぼに入ってEM讃辞を何万回も唱える」というお話。このセラミックの中に1300℃でも死なない光合成細菌が生きている。その小さな生き物に感謝する、というお話は私の脳裏に焼き付いています。

現在、障害者通所更生施設『社会福祉法人 ナザレの村』には、障害者の方々が80名、通所しておられます。障害者年金などの公的な支援と、就労で得た賃金で、その人らしく、健康で、安心して暮らせる居場所を作るためには、工賃向上が大きな課題です。施設開設当初より障害者にとってのEM活動と、工賃向上のために、ボカシ・活性液の販売をさせていただいており、皆さんに良い活性液を届ける使命を感じています。活性液作りでは自然農法センターの現津曲社長や榊原健太郎氏にたくさんのご指導をいただき、現四国EM普及協会会長 山下修氏や、U-net執行理事芝さんのお父さん達からもいろいろ助けていただきました。何より現場のEM活用を全面的にバックアップくださった岩崎一雄理事長のご尽力によって今日のナザレがあります。

農福連携事業について、地域ではこれまで農業をやっておられた方の高齢化が進み、全国的にも耕作放棄地が地域社会の崩壊になりそうな気配も見えています。そこで、私達の法人では、荒れ地にならない様に管理をさせていただき、お米や、野菜や、マコモダケなど、より高品質の作物作りを目指してEMグラビトン農法を学んでおります。EM結界を施した空間では、気持ちのいい土の上で、利用者の方々の穏やかな作業風景を見る事もでき、EMさんのパワーをいただき、元気な活動が繰り広げられております。右の写真は、お米の収穫風景と、生ごみを堆肥化している様子です。

故正木一郎教授が言い残された「地球上に起きているすべての問題はEMでなら解決できる。」は私たちの希望です。コロナ禍によって、学びの場が中止になり心配していましたが、今では、ズーム講習会や、ライン仲間との情報のやり取り、全国に繋がっているEMの仲間への現地講習会など、アンテナを広げることで質の高い学びの場が確保できるようになりました。

施設で働くスタッフのメンバーが入れ替わっても、確実なEM活動が展開できるよう、実践して参りたいと考えております。



「ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト 水産加工場廃棄物を活用した持続可能な”循環型地域農業”」

U-net 宮城 会長, U-net 理事 平野 勝洋

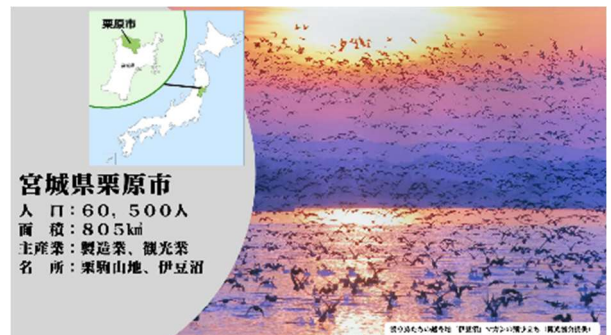
「ユニバーサルビレッジづくりはら」のプロジェクトについて、2021年からの3年間のご報告を致します。これまでの最新の内容につきましては U-net 通信 vol.128に掲載されておりますのでご参照ください。
※右の QR コードより閲覧することができます。



U-net 通信 vol. 128

まずは、宮城県栗原市、この地域の特徴と背景についてお話しします。

右の写真は伊豆沼です。ラムサール条約(湿地)に国内で2番目に登録された場所です。東京ドーム62個分の面積があります。ヘドロと悪臭で全国ワーストだったのですが、その時に比嘉先生に相談しました。平野さんが言うことを聞いてくれるのであれば3ヶ月で解消されますとのことでした。それまでは、ラムサール条約なので環境庁の管轄で予算がつくのですが一向に解決しなかった過去がありました。懸命にEM活動を行ったところ、3ヶ月どころか2ヶ月でヘドロと悪臭が解消されました。



栗原市は住みたい田舎ランキング日本一、米どころ収穫量全国十位なのですが、人口及び世帯数の減少が55年間で45%減少しており、一次産業就業人口の低下も課題となっています。そのため、地域の特徴を活かしつつ、課題を解決していくことが必要となります。

本モデルプロジェクトの目的は、水産加工場から排出される廃棄物を再生可能資源として活用し堆肥へリサイクルし、ごみ排出量を削減することです。現在は廃棄処分されているため高額な処分費用が課題であり、焼却処分のため環境負荷も高いです。

目標の1つ目として、EMを活用し水産加工場のゴミを削減し、高品質な堆肥を作ること(年8m³)、2つ目に、最新EM技術を習得するための勉強会を開催すること(年2回)、3つ目に、市民農園を開園し循環型地域農業を普及すること(利用者10組)を掲げています。

ユニバーサルビレッジモデルづくりに採択され2021年から活動を開始しました。下のような計画図(ロードマップ)をメンバーで話し合っ作成し、進めてきました。

業務		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
(1) 堆肥製造	計画	製造準備(回収2m ³)	製造開始(回収2m ³)	製造(回収2m ³)	製造(回収2m ³)	
	実績	2m ³ (達成)	2m ³ (達成)	2m ³ (達成)	2m ³ (達成)	目標達成
(2) EM農法	計画	計画と準備	作付け・EM散布など	収穫・堆肥施用など	報告会(次年度へ)	
	実績	8名参加	活性液2回散布 産・ボカシ・炭	活性液2回散布 産・ボカシ・炭	報告書作成	目標達成
(3) EM勉強会	計画	メンバーやレジェンズについて(外部講師を招聘)	交流会	最新EM技術“実践活用セミナー”(外部講師を招聘)	報告会・情報共有	
	実績	外部講師招聘	コロナで未実施	外部講師招聘	意見交換会	ほぼ達成
(4) 市民農園	計画	準備計画	開園	管理	報告・情報共有	
	実績	コロナで未実施	10名集める	EM活性液の活用	EM堆肥の配布	ほぼ達成
その他	計画	プロジェクト計画書策定	本格的な活動開始	P D C A活動状況報告	全体の経費報告書 次年度へ向けて	
	実績	計画書策定(3月) 採択される(4月)	関係者に対して活動計画を発表	関係者との調整	年度末報告のまとめ	
	実績	5月31日 進捗状況報告	7月16日 進捗状況	12月6日 進捗状況	3月4日 進捗状況発表	

これは、一番最初の計画図ですが、その後も毎年新しい計画図を作成し、全員で目標達成のために、一致団結して活動を進めてきました。

まず、1つ目の目標、EM堆肥製造についてです。水産加工場の廃棄物をEM堆肥化するために2021年4月から準備し製造を開始しましたが、製造方法や各種届出(法律関係)など思いの外難しく、EM研究機構の指導もあり、なんとか製造を開始しました。2021年当初は年8m³の堆肥生産を目標としていましたが、2022年には月4~6m³を目標に安定して製造できるように設備などを整えることができました。2023年には製造方法や配合量を定め、堆肥製造と販売の届け出などを関係機関に提出しました。

次に2つ目の目標、最新EM技術を習得するための勉強会を開催する(年2回)についてです。普及活動では、「EMで花と野菜づくりの集い」を12年間、毎月開催してきました。

EM勉強会では、外部講師としてEM研究機構から吉川さん、山城さん、奥本さん、岩手コンポスト様からは菅原専務様など、多様な講師陣にお越しいただき、勉強会を開催することができました。勉強会はいつも満席で大盛況でした。

最後に3つ目の目標、EM農法については、水稻農家の仲間8名からスタートしました。EM活性液、EMボカシ、EMグラビトロン炭、塩を使用しました。現在は水産加工場から組み上げた海水を使用したEM海水活性液を活用しています。2021年のスタート直後では、畑に塩を入れることに躊躇う方もいましたが、今ではその効果を実感され、仲間もどんどん増えてきています。WebEcopure の第179回にも掲載いただきましたが、メンバーの三浦信夫さんがJA新みやぎによる米の食味コンクール(ひとめぼれの部)にて2年連続最優秀賞に輝き、佐藤栗原市長から賞状を受け取りました。

【EM堆肥製造】
「製造試験と検査」



堆肥分析診断書
 発行日: 令和2年11月2日
 分析日: 令和2年11月5日~令和2年11月6日
 依頼者: 佐藤栗原市 新大塚1700番地
 みちい環境分譲センター事務所
 TEL: 026-578-1180
 FAX: 026-578-0386

項目	検出値	検出値	検出値	検出値	検出値	検出値	検出値	検出値	検出値
含水率	7.1%	7.2%	7.3%	7.4%	7.5%	7.6%	7.7%	7.8%	7.9%
有機物	23.9	24.0	24.1	24.2	24.3	24.4	24.5	24.6	24.7
窒素	1.5	1.6	1.7	1.8	1.9	2.0	2.1	2.2	2.3
リン	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
カリ	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
カルシウム	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
マグネシウム	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
硫酸	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
塩素	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
亜鉛	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
銅	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
マンガン	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
鉄	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
亜鉛	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
銅	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
マンガン	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9
鉄	0.1	0.2	0.3	0.4	0.5	0.6	0.7	0.8	0.9


1: 全ての検査項目を配合成分と照らし合わせ、しっかりと照合する。
 2: 全検査項目と配合成分1項目の値を照合し、左が与えられた値と一致する。
 3: 1項目に1項目以上を合わせたから3~4項目が一致する。



【EM農法】
「2021年の実践結果」

参加者	EM歴	反収量	活性液	ぼかし	炭	塩	備考
大庭さん	1年	1.0倍	4回	1回		1回	食味優秀
那須野さん	1年	1.0倍	2回				半年2割増
白鳥さん	7年	1.0倍	2回				半年増
大庭さん	3年	9.5倍	2回				半年増
三浦さん	9年	9倍	1回		1回	1回	半年増
三浦さん	1年	8倍	1回				害虫なし
松井さん	2年	7.5倍	3回				
佐藤さん	1年	7倍	2回				
三浦さん	1年	6倍	3回				

Web Ecopureの第179回にも掲載頂きましたが、メンバーの三浦信夫さんが、JA新みやぎによる米の食味コンクール(ひとめぼれの部)において、二年連続最優秀賞に輝き、佐藤栗原市長から賞状を受け取りました。




これからの展望としまして、堆肥づくりの認可を得て販売し、自立したユニバーサルビレッジモデルを構築すること、そのためにも最新EM技術の学びと実践の場を継続すること、また、EM農法に関しては、「持続可能なユニバーサルビレッジづくりはら」の仕組みを確立することを掲げています。これからも栗原市を中心に、各地でEM活動の啓蒙とユニバーサルビレッジモデル事業の拡充を行ってまいります。

「水琴窟の巨匠と コラボした 癒しと美味しさと 楽しさと すべての命を支える 高波動 オーガニックガーデン えひめEMホシとタンポポ」

一般社団法人EMスペースほしとたんぽぽ 理事, U-net 理事, EM親善大使
野本 千壽子

これまでの3年間の歩みを報告させていただきます。

ガーデン造りの基本はEMグラビトロン炭と塩と活性液を使い、そこに波動の高い結界技術を駆使して、【肥料もいらないテラプレタノバ】の再現を目指して来ました。

この畑は30年間、耕作されていませんでしたから、極めてやせ細った、劣悪な畑で、これまでのオーガニック栽培では難しい現状でした。それを解決するには、宇宙からの電子エネルギーを取り入れ、重力波とつながる光合成細菌の手助けが欠かせません。

そこで、【地球を救う大変革】に書かれている比嘉セオリーを検証するために、徹底してEMを生かし、波動測定という、科学の力で見える化しながら【EMグラビトン農法】の検証を進めました。

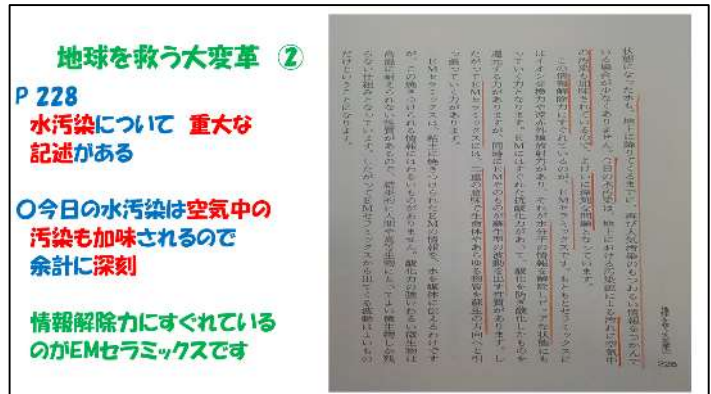
U-net 通信Vol. 129において、高波動の「ガーデンやさい 蘇生なす」の詳しい説明をしましたが、波動測定の免疫の値が400を超える野菜は、常温で腐敗せず、抗酸化力が強く、薬に匹敵するような作物になっていると確信が持てました。私達は、病気になるない、抗酸化力の高い作物であるという出荷基準【EMルーペ 特AやA】を設けて販売を開始しています。



U-net 通信vol. 129

地球を救う大変革の P228には、水汚染は空気中の汚染も加わって余計に深刻になっており、この大気汚染の持つ、悪い情報を解除する力に優れているのはEMセラミックスだと記述されています。

私も、幸福度の低い、悪い情報を解除するのは、感謝や喜びなど、総合的な精神エネルギーとセラミックスの中の光合成細菌の連動だと実感しております。幸福度の低い食べ物は、まずいし、活力になりません。そこで、細胞が喜ぶ、幸福度の高い作物をつくるには、波動の高い仲間たちとの活動が大切で、つながる仲間の見極めができると、必ず思いは叶い、実現するという手ごたえも感じることができました。



ですから、1000坪ガーデンのパワーの強さは、全国から集まった、延べ500人の皆さんの、高波動の魂や夢が底力となっていたと証明できる数値がどんどん出てきました。

6月から掘り始めた井戸は、2か月後に一度、水の姿を見せてくれましたが、すぐに出なくなりました。そこで、地質学に詳しい大学教授に教えを請い、13mまで掘り進める決断を下し、ユンボで井戸底までの道をつくり、丸環の中に入ってスコップで土をかき出し、バケツを滑車で運び出すという手掘り作業で行い、6か月をかけて、やっと水脈にたどりついたのです。

その貴重な水を清めるために、整流ブロックやイブストーンで結界を作り、お神酒をまいて、EM讃詞を唱えました。井戸水の免疫は19, 640を示し、鑑定士と相談の結果、【青空宮殿井戸】と命名しました。



円形ガーデンづくりは、【お花の終活】を目指した花壇づくりの遠藤かつゑさんを招き、昨年1月に、呼びかけたボランティア70名で実施しました。

私がイメージしていたガーデンとは異なるので、急遽、山の土を5トン入れ、小高く盛って周囲を囲うように境界の創り直しも行いました。小高い丘となった真ん中に人が歩ける通路が出来、瞬時に全体イメージを描き、次々と作業が進められました。

植える花は宿根草や球根です。山形に雪が降り始める前に、遠藤さんの花畑から、愛媛に送ってくださった貴重な宿根草の数々です。植えた場所には、水も、肥料も、活性液も散布しない花壇づくりです。

通路に原液の活性液を流しておけば、後は雨まかせで何もしないという庭作りです。

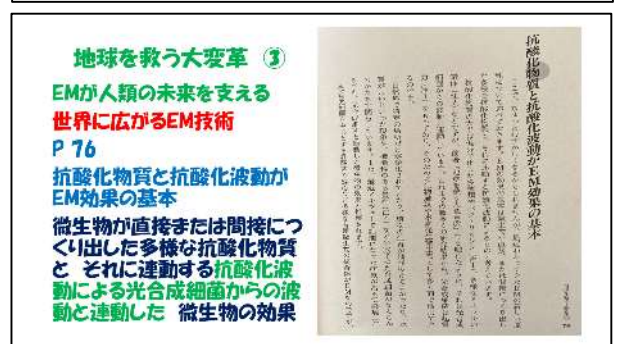
同時に果樹園では、和歌山の古田さんご夫妻の指導で50本の果物の苗を植えました。子ども達も自分の記念樹を植え、周りには穴を掘り水の通り道を作ったので、全くぬかるみのない畑に変わりました。

私達は、作物の作付け方法についても、セラミックスの中で、生きてハタライテいる光合成細菌のハタライキに注目して実験を行っております。切り口にセラミックスをまぶしたジャガイモは、途中長雨で、葉も茎も枯れてしまいましたが、土の中で何が起きるのか、キャリアとブルーシートで雨対策を行い土の中の変化を確認しました。

炭を入れた畝と入れない畝で、大きさや測定値を比較しましたが、炭あり芋はより大きく育ち、しかも、免疫が500を超え、炭なしだと500には届きませんでした。グラビトン農法の主役は、炭・塩・活性液で、炭はエネルギーを集めると言い続けてきましたが、まさに、このことを証明するかのような現象がみられました。また小腸は、炭なしでも508を示し、EMは小腸に共鳴度が高いということが理解できますが、これは、これまでのほとんどのEM栽培でも見られ、血液をきれいにする力がEMにはあると考えられます。

そこで、比嘉教授の本の P76にあるように、ガーデンの作物が、免疫400を超える高波動な作物に育ったのは、量子的な働きを持つ光合成細菌の波動との連動作用が起きていると確信しております。

1000坪ガーデンでの特別な連動作用について説明します。このガーデンを訪れた柳原満紘氏は、畑で波動の高い石を見つけられ、その石でイブストーンを作られました。ところが、それらの石を組み合わせたイブストーンの免疫が20,000を超え、窯が溶けて壊れてしまったのです。私達はその大きなイブストーンで炭を焼いておりますが、これが連動作用の一つ目です。



連動作用の二つ目は、仮設トイレのし尿の中の、光合成細菌を強化させている工夫です。EM入りのし尿を仮設トイレから抜き出し、300Lのタンクに移し、更に10%の活性液を追い足して、2週間発酵熟成させます。それを100倍に薄めて、雑草処理の土づくりに使います。

連動作用の三つ目は、雑草は草刈りをしません。草を踏み倒し、イブストーンで波動を上げた塩を撒き、光合成細菌が元気になっている、し尿堆肥を散布して、畳表やシートをかけて日光を遮断し、1か月程度おきます。すると雑草が堆肥化して、土がふかふかな土に、なんと免疫9だった土は、免疫81を有する土に生まれ変わりました。

連動作用の四つ目は、ガーデンの中心に水晶玉を埋め、エネルギーのパワーを上げることにしました。60cmの深さの穴を掘り、炭と塩を入れて活性液を撒き、その上に、水晶の入った容器を埋めました。水晶玉の場所から発する免疫は 6, 120を示し、半径3mの範囲はこの高さが持続しています。

さらに、U-net通信の【あとから来る者のために】の作者である 坂村真民氏の詩碑をいただいて、パワーの連動化を計りました。この詩碑は、柳原満紘氏の所に設置されていた、京都の鞍馬山の石で作られたものですが、ご縁を頂き、ガーデンの中心に、【念ずれば花開く】の文字が、真東を向くように固定しました。皆さんのパワースポットとしても、喜んでいただいております。

これらの波動の高さに連動してか、詩碑の近くでは奇跡的な現象が起きています。「ガーデンやさい蘇生なす」の事例や、シンボルツリーまわりの台座からは、足の底から素晴らしいパワーを体感できるのです。

ガーデンの電気引き込みポールにもナザレ方式を使い、昨年11月に譲っていただいた、福島で役目を終えた200Lの百倍利器にも、結界を工夫し、仕込み方法もこれまでの原子転換技術を駆使して【パワー活性液】が完成しました。

そのパワー活性液は、仕込む材料のすべてをミラクルスーパースマホで原子転換して、波動の高い井戸水で仕込んだ結果、免疫90, 000を示しました。

ガーデンの連動の仕組みをまとめます。農園の炭の免疫は、22, 000、井戸水19, 640、真民詩碑からは6, 120、パワー活性液90, 000、つどいのいす、円形ガーデンの結界、圃場周囲の結界、圃場敷地全体の雑草堆肥化と重ね効果、ネットポールの立体結界、桑の木などの樹木結界、そして、ここに集って下さった方の魂の重ね効果、さらに、設備の方位や向きも徹底研究、ガーデンで収穫した作物や設備の名前も鑑定士と相談にて命名いたしました。ガーデンの正式名称は【えひめ EM ホシとタンポポ】です。

私達は、柳原満紘氏の波動測定や施術の協力を得て、EMIによる抗酸化力の高い食品を提供して、発達障害、精神疾患、難病、癌の人々を支援するグループラインも作っています。毎月定期的に行っているズーム講習会では、量子的なサポート方法を具体的にお伝えしております。

テレパシーごっこパートⅡの本を出版しましたが、ADHDとLDと診断されていた孫も、柳原満紘氏の施術を受け、EM生活や体周りのEM結界などを取り入れた結果、知能検査結果が正常値範囲に、身体バランス感覚も抜群によくなり、愛媛県が実施している【ジュニアアスリート】テストに合格、全国から注目されている愛媛の自転車競技強豪校へ進学して、いきなり、インターハイ6位入賞となりました。

学習面でも、苦手だった数学や漢文の成績など、驚く上位成績を収め、中学2年まで、発達障害児として苦労していたことが信じられないような変容振りを見せて、今年の2月4日の愛媛新聞にも【ミラクルモ



これらの波動の高さに連動してか、詩碑の近くでは奇跡的な現象が起きています。「ガーデンやさい蘇生なす」の事例や、シンボルツリーまわりの台座からは、足の底から素晴らしいパワーを体感できるのです。



ンスター】として紹介され、昨年12月には、静岡の競輪養成学校での強化合宿にも参加させていただき、手ごたえを感じて、4年後のオリンピックを目指してがんばっている高校1年生です。

ガーデンでは、薬草茶の開発が進み、桑茶葉の免疫640茶、エキス744と、抗酸化力の高いお茶が完成しました。ガーデン以外の桑茶葉では、免疫261程度だったのですが、EMの特徴を熟知して作れば、免疫744という高波動のお茶になることも確認できました。しかし、EM商品の扱い方には注意があることも改めて確認ができました。今では、優れた健康効果があると言われる野ぶどうでも、素晴らしいお茶の研究が進んでおります。そこで、ブドウ茶の量産を目指して、苗木の準備も整い、今年から栽培を本格化させて参ります。

ガーデンでは使わなくなったピアノを、屋外で雨からも、日照りからも、寒さからも、ピアノの機能を守り、432Hzの最高のピアノに育てるEM化ピアノ実験を開始しました。弦には、Aパウダーを、背面の木製部は、EMコーティングを、ピアノの立体にEMシールやミニブロックで結界を作るイメージです。保育園児の集まりに、素敵な野外コンサートに、来園者の皆様に、是非弾いていただきたい、EMストリートピアノです。



果樹園スペースに、日本ミツバチを下さる方がおられ、レンゲや菜の花の花を確保するためにヤギを迎えたいと考えました。産まれて2か月経ったヤギを連れて帰るために、EMミニハウスを北東の場所に、EMセラミックスや整流ブロックで基礎工事を行い、板塀にはパワー活性液を噴霧して、ミニハウスが完成しました。横にある、電源引き込みポールは、ナザレ方式で、ポールと、ミニハウスをペインティング用活性液で繋ぎました。



ところが、1月1日、驚く能登半島の地震情報に、私達はこれまでの体験を生かして、直ちに支援活動に乗り出しました。石川県の仲間たちが、全国から集まった支援物資を届けてくださっております。地震・台風・水害は避けて通れない自然災害ですが、EMでなら、それを防ぐ技術もあります。もし、甚大な被害にあったら、サポートできる避難場所も大切、その避難場所としても計画したガーデンです。



今回の、能登半島地震の教訓を風化させないで、形に残したい！能登復興に祈りを込め、伝統文化を絶やさず、再び、賑わいのある生活がもどりますように！【念ずれば花開く】の詩碑の場所に、しだれ桜を植樹することにしました。その計画を知った野町さんから、寄附が届きました。桜は、日本人の心を象徴する木と言われていますが、2月20日のよき日に、EMを使って植樹をしました。ガーデンの大切な宝物となりました。

これから、返礼品としての、恩送り事業も始まります。農家さんへの【EMルーペ特AやAの認証取得】に向けた、応援プロジェクトとして、土、水、炭の改善を目指す技術提供を行い、認証取得ができるように支援致します。さらに、これから、深刻になるだろう福島処理水や汚染土の問題などにも取り組む予定です。海外からもこのガーデンに関心を持っていただき、柳原満紘氏とのコラボによる勉強会をセットにして、受け入れも始まりました。スタート時には、30年も耕作が放棄され、雑草だらけの畑ではありましたが、EMさんのパワーをいただき、全国から、ボランティアさんが駆け付けてくださり、お金も、労力も、幸福波動も、惜しみなく投入していただいたお陰で、奇跡満載のユニバーサルビレッジが出来上がりました。

U-netからは、3年間ご支援いただき、ありがとうございます。地球が、EMパワーで、どんどん浄化されますように、ネットワークを広げ、EMの集大成を目指して研鑽を重ねて参ります。

「講評」

U-net 理事長 比嘉 照夫

今日はU-netから4名の方に発表いただき、ありがとうございました。

今回の皆さんの成果は事実であり、EMは生物であり、すなわち取扱いの世界となります。EMを1回やったからと言って終えるものではなく、繰り返し使い生活化するように扱くと重ね効果が出てきます。ある人が、私がやったのが一番と言っても、何年も何年も繰り返しEMに取り組まれている方のレベルには及びません。EMは葉や一般にあるような物質とは違い、生き物を取り扱うという方法がEMには必要です。

『地球を救う大変革』を執筆当時、とても大変でした。もう35年以上も前の本ですが、今読み返すととても大胆なことを書いているものだと感心します。同じく、『微生物の農業利用と環境保全』という本も38年以上前の本ですが、何故当時にこの本で解説した微生物(EM)利用技術が実現できたのか、運が良かったと言うしかありません。農業のため、環境のためにと動いていると、皆さんが多くの知恵を付け協力してくれました。EM技術はこれで良しというものではなく、日々改善、向上させて行く努力が必要です。そうすることで、私たちが人生の意味が分かるようになり、解決できない問題は無い、EMですべて解決できるという仙人のように進化することができます。

奥本くんの報告から、高いレベルで有機栽培を実践しているのが分かります。さらに、明日は私の畑を見て耕さないで栽培する方法を学んでください。お年寄りの方達には耕すという作業は大変です。次の挑戦は、EM技術を活用して耕さないで栽培をする不耕起栽培です。

野町さんの報告は、これは福祉施設でのEM活用の究極です。施設でEMを徹底して使うことで、周囲の環境も、河川や地下水も時間と共にきれいになって行きます。同施設で働いている人もEMの活用や応用を重ねることで、時間と共に自身の知恵や使命感が成長します。EM技術で大切なことは、工夫を重ね、微生物の管理、重ね効果を高めるといった心得を続けることで、様々な事象が起こっても、その課題を取り込んで改善し解決して行けば良いのです。

栗原市の平野さんは、実際には彼の活動の少ししか発表していませんが、放射能汚染対策等、東日本大震災後には地元宮城県だけでなく岩手県や福島県等でEM供給にご協力いただきました。大変な状況にも関わらず、また、EMに理解の無いことを言う人たちからの批判もあり、大変苦労されました。世の中のために、EMで解決すると取り組んだ活動に続き、今日の素晴らしい成果を上げての報告をいただきました。

野本さんグループの活動ですが、法令順守に沿った対応を進めていただければと思います。悪意を持って接近してくる方もいますので、上げ足を取られないよう、皆さんが無償のハッピーを受け取れるような仕組み作りに取り組んでいただければと思います。野本さんはEMのことを良く分かっていますが、野本さんと同じ方法であの通りやろうとすると大変です。一方で、一番良い方法は、EM活性液に塩を1%以上、EMグラビトン炭とEM・X GOLDを1/10,000添加すると、大変質の良いEMを作ることができます。EMグラビトン炭とEM・X GOLDを少量添加するだけで波動は高まります。本日このセミナーを視聴された方には、この方法が基本として取り組まれてください。最新情報を踏まえ、基本をしっかりと抑えて良質のEMを作り応用を進めてください。

今月は、白鳥さん(映画「蘇生」の監督)との面会が予定されています。彼は、恩送りや様々なことに取組んだが、環境を含めた地球の問題を解決できるのはやはりEMしかないかと改めています。U-netでは日本橋川からEMを投入する活動を終えましたが、今度は白鳥さんの東京事務所に百倍利器を設置して、東京湾へEMを投入したいと話しています。白鳥さんは発信力のある方なので、改めてEMの勉強をしてもらい、都市部からのEM活用の成果を出していただければと考えています。

明日は私の農園で不耕起栽培やトマトの長期取りを見てもらいます。私はアイデアが出たら先ずやってみます。失敗することもあります。その失敗を良く観察してみるとその原因が分かってきます。失敗が本

当のパワーになりますので、EMを応用して色々な楽しみを見つけ、実践して応用を重ねるといったポイントを認識してください。

大切なことは、EMIには決まった「こうだ」と言うことはありません。扱い方で変わってきます。繰り返しになりますが、EMIは生き物であり、取扱いの世界なのだを認識して応用することが重要です。以前は、どうしますか、との質問がでていましたが、今では皆さんが自分でEMを活用して解決する力を持ってきました。すごい進化した活動となって来ました。

U-netでは以前のような全国各地で一堂に会したイベントができませんが、各地でユニバーサルビレッジ(UV)モデルを作ることや、各地域のテーマに沿った活動を挙げていただければ、EM研究機構が応援できるよう相談します。色々な課題にチャレンジして、U-netの活動が大きく発展することを期待しています。

また今日は、スライドを用意したので、もう一度EMの再学習をしてほしいと思います。かつてEMというとエセ科学の代表でしたが、今やEMIは世界中で使われています。ネガティブな意見は無くなりました。それはEMの量子的な性質があるためです。科学的な研究報告、例えば、放射能汚染対策の研究(ベラルーシIRBとの共同研究)が国際会議や論文となって公開されています。

EMは、当初は5科10属81種で始まりましたが、最終的には現在の光合成細菌、乳酸菌、酵母の構成になりました。善玉菌主体の微生物群で、私の本にも図説で紹介しています。

乳酸菌や酵母は好気的な性質がありますが、光合成細菌は絶対嫌気的な性質であり、自然界ではこれらが共存することはありません。私の研究課程で、ペットボトルを使った等の幸運も重なり、現在のような発酵と合成の力がリンクしてEMが誕生しました。先ほども述べましたが、EMは使う人の力量次第でその成果が発現します。量子重ね効果は、EMを水や空気のように常に使っていくことが重要です。EMの機能は、抗酸化、非イオン、有害なエネルギーを有用なエネルギーに整流する作用があります。量子重ね効果や原子転換とつながり、EM活用分野は多岐に渡ります。私は世の中に万能なものは無いという常識は分かりませんが、EMは活用、応用次第で万能です。

沖縄ではジャガイモのタネイモを取るのは無理だと言われていましたが、5-6年前からの取り組みで、沖縄の境界下の環境ではジャガイモのウイルスが発生せず、タネイモが取れるようになりました。そこで、サトウキビ栽培とジャガイモを組み合わせる取り組みを宮古島等で行っています。サトウキビ残渣を活用したジャガイモのゴロゴロ栽培で、あるレベルに達したら改めて紹介したいと思います。最後に、EMの機能と、EMIは生き物であるということとを再認識し、EMの能力を発揮させるのは、扱う人の力量次第ということとを認識し、この点を意識してEMIに取り組んで行くことと応用分野は多岐に渡ります。会員皆さんのEM力が更に向上することを期待しています。

**EM (有用微生物群) のことをこれから
知りたいはじめての方へ。。。。**

当初は、2,000種以上の微生物から、**安全性が確認**された5科10属81種の混合体でスタートした。

その後、より簡略化する研究も進み、今では**光合成細菌と乳酸菌、酵母**主体の**善玉菌の共生体**として活用されている。

2/8

**EM (有用微生物群) のことをこれから
知りたいはじめての方へ。。。。**

乳酸菌や酵母は、好气的性質が強く、光合成細菌は絶対的に嫌气的性質が強く、自然界では共生的に存在することは不可能である。密閉条件下で、様々な実験的幸運の結果、全く相反する性質の微生物を結びつけることが可能となったが、そのポイントは、**発酵の力と合成の力が上手く**リンクした結果であり、これまでの研究では絶対的にあり得ない現象である。その応用は**万能**であり、**無限大**である。

3/8

**EM (有用微生物群) のことをこれから
知りたいはじめての方へ。。。。**

EMは確率的な性質が強く、**使う人の力量の結果**であり、すべて使った人の責任である。**微生物密度が常に高まるような管理的使い方**や、常に使い続けると、その**量子的重ね効果が顕著**になる。

すなわち、**水や空気のような存在になるような使い方を心得る**ことが基本である。

4/8

EMの機能

1. 抗酸化
2. 非イオン化
3. 有害なエネルギーを有用なエネルギーに整流する
4. **量子力学的重ね効果と原子転換**
エンタングルメント (量子もつれ)
コヒーレント (量子うなり)

↓

比嘉セオリ

全てのものにエネルギーを与え、慈しみ、育む状態

5/8

事務局からのお知らせ

■令和6年度 第1回理事会、第25回通常総会が開催されました。

3月1日に当会の令和6年度、第1回理事会及び第25回通常総会が沖縄県の暮らしの発酵ライフスタイルリゾート内会議室(会場参加と ZOOM を利用した WEB 会議を組み合わせたハイブリッド方式)で開催されました。

●第1回理事会では、以下の4議案が審議され、賛成多数で承認されました。

- 第1号議案 令和6年度(2024年度)役員選任の件
- 第2号議案 第25回通常総会次第の件
- 第3号議案 令和5年度(2023年度)事業報告及び収支決算の件
- 第4号議案 令和6年度(2024年度)事業計画及び活動予算の件

第1議案では以下の20名の方が理事として継続することが承認されました。

比嘉 照夫、 石川 文雄、 田中 敏幸、 角田 善男、 土井 博義、
吉彌 信子、 藤間 豊、 鮫谷 陸雄、 小川 敦司、 藤木 巧一、
東市 篤実、 木場 悟、 竹内 睦治、 泉崎 富子、 武藤 麻央、
野本 千壽子、 今村 正、 平野 勝洋、 芝 幸一郎、 前原 幸太郎(敬称略)

- ・理事長には比嘉照夫現理事長の重任が提案され、出席理事全員異議なく、承認されました。
- ・令和6年度の執行委員(執行理事)については、昨年度と同じく、吉彌理事、小川理事、東市理事、野本理事、平野理事、芝理事の6名が継続されることになりました。

●第25回通常総会では、以下の3議案が審議され賛成多数で承認されました。青山監事による監査報告もなされました。

- 第1号議案 令和5年度(2023年度)事業報告及び収支決算の件
監事監査報告
- 第2号議案 令和6年度(2024年度)事業計画及び活動予算の件
- 第3号議案 令和6年度(2024年度)監事選任の件

なお、令和6年度監事として青山真紀氏が重任されました。

正会員の皆様には、総会への出席、書面議決書や委任状のご提出にご協力をいただき、重ねてお礼申し上げます。

当会事務局は本年度も、事務局長に新谷正樹、副事務長を下地貴司、事務局スタッフとして比嘉良仁、齋藤沙、國廣真里枝、奥本秀一、安里美智子が事務局業務をサポートします。本年度も引き続きよろしくお願い申し上げます。



理事会ならびに通常総会の翌日3月2日午前中は総会出席者対象の現場視察が実施されました。

【青空宮殿】



【サンシャインファーム】



【農を活かした健康・福祉の里づくりに向けた推進事業】
(北中城村ユニバーサルビレッジ建設現場) 【北中城村植物ごみ資源化ヤード】



★第25回通常総会出席者対象セミナーダイジェスト版 動画視聴のご案内（会員限定）

3月1日に開催された第25回通常総会出席者対象セミナーでの発表をまとめたダイジェスト版動画を配信します。配信期間中はインターネットに繋がるパソコン、スマホがあれば、好きな時間にダイジェスト版動画が視聴できます。

【配信期間】 4月19日(金)の朝9時～4月22日(月)の夜9時まで

視聴をご希望される会員の方は**4月15日(月)**までにお名前と、「ダイジェスト版視聴希望」と標題に明記の上、事務局(info@unet.or.jp)へメールにてご連絡ください。

視聴用 URL は4月18日(木)に事務局よりメールにてお知らせいたします。

“身体に美味しい農産物コンテスト2024”で本会会員の アムリタファームが栽培したEMトマトがグランプリ賞を受賞しました！

2024年2月10日に一般社団法人 日本有機農業普及協会主催のオーガニック・エコフェスタ「身体に美味しい農産物コンテスト2024」が開催され、EMを活用したトマト、カブが最優秀賞を受賞しました。その中でも、春夏季・秋冬季大玉トマト部門で最優秀賞を受賞したアムリタファームのトマトが、全部門のグランプリ賞を受賞しました。

このコンテストは野菜の糖度、抗酸化力、ビタミンC、硝酸イオンの数値を分析し競うもので、アムリタファームのトマトは、糖度、抗酸化力やビタミンCがとても高く、有害とされる硝酸イオンは検出限界値以下でした。

審査員はアムリタファームのトマトについて【すさまじい】【糖度12.8度は大玉ではありえない数字】【見たことがない数字で一回分析し直しました】などコメントをよせ絶賛していました。

また、最優秀賞を受賞した株式会社EM研究機構のカブについても【やっぱり強いですねEM】【すごい甘かった】【理屈通りに素晴らしい抗酸化力も3倍、硝酸イオンも桁が違う】といったコメントをよせていました。

CF桃太郎ファイト

ORGANIC-ECO FESTA2024
グランプリ賞

アムリタファーム
齋藤 則高 氏
麻患 恵 氏

大玉トマト(秋冬季部門) 最優秀賞
アムリタファーム
齋藤 則高・麻患 殿

	糖度	抗酸化力	ビタミンC	硝酸イオン
検体	12.8	89.0	31.0	<10.0
平均値	5.2	22.6	17.5	28.5

美は海外からの注目度も近年著くなり、アムリタファームにスイス、ドイツの視察、イタリアからは活動開拓してほしいなどの声援がありました。このコンテストが世界に展開するきっかけが立派でできておりますので、さらなる発展を期待して世界的なイベントになってほしいです。

かぶ部門 最優秀賞

サラダかぶ

沖縄県
株式会社
EM研究機構
齋藤 沙

	糖度	抗酸化力	ビタミンC	硝酸イオン
検体	8.5	48.5	26.9	15.3
平均値	5.7	15.4	17.9	490.4

4月26日に開催される本会第2回EM技術セミナーでは、アムリタファームの齋藤さんご夫妻にグランプリを受賞したトマト栽培について発表していただく予定です。

★令和6年度ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト提案書を募集します！ (U-net 会員対象)

本会の重点事業の1つとして令和3年度に始まったユニバーサルビレッジ※¹のモデルづくりプロジェクトは、現在、全国で13のプロジェクトが実施されています。

令和6年度も、ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクトを推進するため、U-net 会員全員を対象に「ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト提案書」を募集します。

EMを活用した核となる活動を行われていて、すでに拠点、コミュニティを持っている会員の方で、現在の活動をさらに推進、強化することにより、社会的な効果を生む自立的なユニバーサルビレッジに発展させたいと考えておられる会員の方は、是非ご応募ください。

特に、これまでにない新規性のあるご提案や福祉関連のご提案は歓迎いたします。ご提案頂いたプロジェクトの中で本会執行委員会での審査の結果、助成対象に選ばれたプロジェクトには助成金(最大50万円/年)を最長3年間ご支援すると共に、ご要望に応じて技術サポートを行います。(なお、営利を目的とした事業を行う者(株式会社等)は助成対象となりませんので、ご了承ください。)

応募にご関心がある方は、U-net事務局にご連絡ください。事務局より「ユニバーサルビレッジモデルづくりプロジェクト提案書」の応募用紙をデジタルデータで送らせて頂きます。応募用紙に必要事項を記入の上、**令和6年4月30日(火)まで**に事務局にご送付ください。

問い合わせ先 E-mail: info@unet.or.jp 電話番号: 098-923-2600

***1 ユニバーサルビレッジ(Universal Village)とは**

マサチューセッツ工科大学(MIT)の正木一郎教授が提唱された「地球環境及び生物多様性の保全および人類の持続可能な発展を可能とする社会、コミュニティ」を表すもので、科学者、事業者、政治家、市民の共通認識とするために創られた名称です。

EMを活用したユニバーサルビレッジとは、あらゆる場面でEMを空気や水のごとく使う EM生活を徹底し、安全、快適、低コスト、高品質、時間と共に成熟する高度情報共存共栄社会、すなわち、真の意味で自然と調和した幸福度の高い社会づくり、国づくりの基礎となる大小様々なコミュニティを表します。シンプルに表現するとEM的価値観が共有され、EMの活用が徹底的に実践されているコミュニティです。

★奥本さんが紹介されていた「土づくり講習会」の歩み第1集～第3集が U-net の HP から PDF でダウンロードできるようになりました！

EM研究機構の奥本さんの「福島の有機農業県化への取組み」で紹介されていた福島県伊達市霊山町のNPO法人りょうぜん里山がっこうが運営する農業者グループ「大石3ちゃん倶楽部」ですが、大石3ちゃん倶楽部で実施された土づくり講習会の概要やお仲間の現場での取組みをまとめた冊子『大石3ちゃん倶楽部における「土づくり講習会」の歩み』第1集～第3集が、NPO法人りょうぜん里山がっこうのご厚意で U-net のHPからダウンロードできるようになりました。

土づくり講習会の講師の奥本さんが有機農業の基礎からEM技術の活用まで写真や図表入りで丁寧に説明されている冊子となっていますので、ぜひご活用ください。

NPO 法人りょうぜん里山がっこう HP <https://date-satoyama.com>

冊子の内容を少しだけご紹介いたします。

【畑でのEMボカシやEM活性液の使い方】

- 基本的に土づくりは、種まきや苗の定植の 30 日以上前に行います。
- 堆肥やEMボカシ肥の施用量、EM活性液の散布については、おおよその目安として以下を参考にしてください。

① 資材の投入

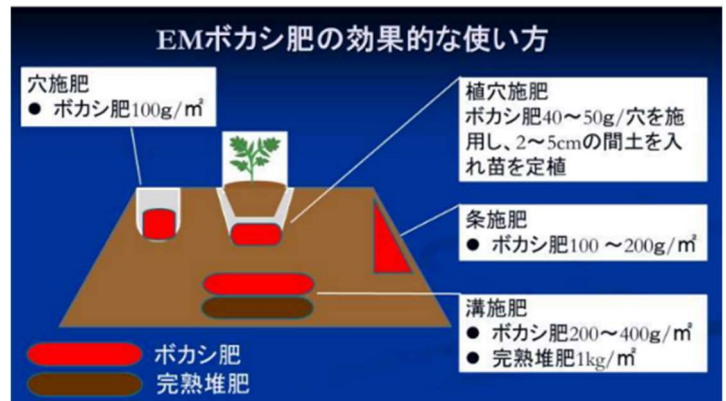
- 完熟堆肥を 2t/10a、EMボカシ肥を 200～400kg/10a 程度土に投入します。
- 水はけ、水もちの悪い土地では完熟堆肥を多めに入れたり、水もちを高めるために籾殻くん炭を加えます。
- 酸性に傾いた土壌の pH 調整には、苦土石灰、消石灰、炭カルを使用するのが一般的ですが土を固くする性質があることから、有機石灰(貝化石・カキ殻)を 100～200 kg/10a 程度投入することをお勧めします。

② EM活性液の散布とすき込み

- 土に資材を投入したらEM活性液(10L/10a)を薄めて散布し耕起します。
- 可能であれば、耕起・畝立て後にも、EM活性液(10L/10a)を土が充分湿る程度に希釈して散布します。
- 作物の生育状況を見ながら、EMボカシ肥を追肥的に施用します。施用時期・施用量などは作物によって異なりますが、一度に施用する量は 100kg/10a 程度を目安とします。

【EMポカシ肥の効果的な使い方】

- ポカシ肥の全面施肥ではコストが高くなったり、多雨により栄養分が流れてしまったりすることがあります。したがって、作物の根による養分吸収が容易になる局所施用(穴施肥、溝施肥、条施肥)がポカシ肥の利用効率の向上と減肥になります。
- 栽培期間が短い葉野菜等は全面施肥でも良いのですが、栽培期間が長くなる果菜類等は局所施肥の方が効果的です。
- ポカシ肥を局所施用すると、ポカシ肥の塊りに向かって、真白な根毛をびっしりと発生させた作物の細根が張ってきます。有用な微生物たちが病原菌から根を守る働きをしてくれます。



大石3ちゃん倶楽部
「土づくり講習会」の歩みⅢ 14ページから抜粋

—今後の U-net 会員様向け「EM 技術セミナー」日程(予定)のお知らせ—

地球環境共生ネットワーク(U-net)では U-net 会員様向けのEM技術セミナーを Zoom にて行っております。今年度の日程をお知らせいたします。

2024年			
4月26日(金)	7月5日(金)	9月6日(金)	11月8日(金)
2025年			
1月17日(金)			

当日ご視聴出来ない方は、アーカイブ配信もございます(こちらも U-net 会員様対象です)。ご興味のある方は U-net 会員になっていただき、EM の事例や使い方をご参考にしていただければと思います。

★令和6年第2回EM技術セミナー開催のお知らせ(会員限定)

令和6年第2回EM技術セミナーを令和6年4月26日(金) 14時～16時に開催します。セミナーへの参加申込は3月4日(月)から当会のホームページ(<http://www.unet.or.jp/>)のインフォメーション欄から受付を開始しておりますので、お申込み専用ページからウェビナー登録いただきますよう、お願い申し上げます。**お申込みの締め切りは4月25日(木)**です。

なお、セミナーのプログラムにつきましては、後日、当会のホームページでお知らせします。

※ 令和6年第2回EM技術セミナーはU-net会員様限定の配信となっております。

ウェビナー登録時、ご記入いただくお名前と会員様のお名前が違う場合、参加登録が出来ない場合がございますので、ご注意ください。また、グループ、法人会員の皆様は、氏名に加えて、所属するグループ名または法人名を記載いただきます様、お願い申し上げます。

例) 姓 名

ウェビナー登録についてご不明な点がありましたら、U-net事務局にお問合せ下さい。

問い合わせ先 E-mail: info@UNET.or.jp 電話番号: 098-923-2600